

グローバルファンドの成果報告書、厳しい一年の中でも、各国が不可欠な保健医療サービスを守るために尽力したことを示す

グローバルファンドのパートナーシップは、2002 年以降、**7200 万**の命を救うことに貢献してきました。今年の成果報告書では、グローバルヘルスにおける前例のない課題に直面する中、各国やコミュニティのリーダーシップ、イノベーション、パートナーシップが、不可欠な保健医療サービスを守り、エイズ、結核、マラリア対策における数十年にわたる進展を維持するうえで、どのように貢献したかに焦点が当てられています。

2026 年 9 月 16 日

ジュネーブ本日発表されたグローバルファンドの 2026 年成果報告書によると、2025 年、グローバルファンドが支援する国々とパートナーは、グローバルヘルスにとって最も厳しい時期の一つを迎える中、これまで積み重ねてきた成果を守るために協力し、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおいて高い強靱性を示しました。

グローバルファンドが支援する 100 以上の国々で、各国政府、コミュニティ、市民社会、二国間・多国間パートナーは、国際的な支援資金の大幅な削減から、紛争、住民の強制移動、人道支援ニーズの高まりなど、深刻化するさまざまな課題に対応し、不可欠な保健医療サービスを維持するとともに、三大感染症との闘いで 20 年以上にわたり積み重ねてきた進展を守りました。グローバルファンドのパートナーシップは、各国と連携し、重要な課題への対応、欠かすことのできないプログラムの維持、イノベーションへのアクセス拡大に取り組みました。

こうしたレジリエンスが示された一方で、2025 年は、これまでの成果がいかに失われやすいものであるかを改めて強く認識させる年でもありました。支援資金をめぐる混乱は、三大感染症に深刻な影響をおよぼしました。多くの国で HIV 予防サービスが縮小または停止され、結核対策では患者の発見、診断、治療に支障が生じ、マラリア対応では必須医薬品の在庫切れや、重要な予防キャンペーンの遅れが発生しました。

厳しい状況下でのリーダーシップ

「今年の成果は、各国が主導し、パートナーが各国の優先事項に沿って柔軟に対応することで、何が可能になるかを示しています」と、グローバルファンド事務局長のピーター・サンズは述べています。「極めて厳しい状況に直面する中、各国、コミュニティ、パートナーは協力して、不可欠な保健医療サービスを守り、エイズ、結核、マラリア対策における数十年にわたる進展を維持しました。各国が自国の保健分野の取り組みをより主体的に担うようになることで、私たちには、変革を加速し、イノベーションを活用し、限られた資金からより大きなインパクトを生み出す機会が生まれています」

こうした厳しい状況にもかかわらず、各国はグローバルファンドのパートナーシップの支援を受け、2025 年も引き続き大きな成果を上げました。

- 2690 万人が HIV の抗レトロウイルス治療を受け、2024 年の 2560 万人から増加しました。
- 740 万人が結核の治療を受け、2024 年に達成した水準を維持しました。
- 1 億 9600 万張の殺虫剤処理蚊帳が配布され、2024 年の 1 億 6200 万張から増加しました。

2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により 7200 万の命が救われました。

エイズ、結核、マラリア対策における進展

HIV/エイズ

各国は、保健システムへの大きな負担や厳しい資金状況に直面する中でも、HIV 治療と継続的なケアを維持しました。2025 年には、グローバルファンドが支援する国々で HIV 陽性者の 87%が自分の感染を把握しており、80%が抗レトロウイルス治療を受け、74%がウイルス量の抑制を達成しました。一方、HIV 予防サービスは、国内外の資金削減により大きな打撃を受けました。2025 年、グローバルファンドの支援対象国では、110 万人が HIV 曝露前予防 (PrEP) を受けました。これは、2024 年の 140 万人から減少しています。こうした状況の悪化は、HIV 予防の取り組みを立て直し、これまで積み重ねてきた HIV 対策の成果を維持することが急務であることを示しています。

結核

各国は、資金面で厳しい状況に直面する中、欠かすことのできない結核の診断と治療へのアクセスの維持に取り組みました。2025 年、グローバルファンドが支援する国々では、740 万人が結核の治療を受けました。このうち、11 万 5000 人が薬剤耐性結核の患者でした。2024 年には、世界で推定 1070 万人が結核を発症し、120 万人以上が結核により死亡しました。結核の診断と治療には依然として大きな課題が残っており、より多くの人を早期に発見、診断、治療する必要性が一層高まっています。

マラリア

各国は、支援資金をめぐる混乱、紛争、気候変動、殺虫剤耐性の拡大という状況に直面する中でも、命を救うためのマラリア対策サービスの維持に取り組みました。多くの国で、必須医薬品の供給や適切な時期に実施する必要がある対策に支障が生じる中でも、グローバルファンドのパートナーシップは、効果の高い予防策を優先する取り組みを継続しました。2025 年には、1 億 9600 万張の殺虫剤処理蚊帳が配布されました。その一方で、2024 年には世界で推定 61 万人がマラリアにより死亡しました。この事実は、不可欠な保健医

療サービスへのアクセスを守り、マラリア対策をさらに前進させる必要性を強く示しています。

ニーズが最も大きい場所に支援を届ける

エイズ、結核、マラリアによる疾病負荷は、世界でも特に厳しい状況に置かれた国・地域に偏って集中しています。脆弱な状況にあり、紛争の影響を受けている地域が世界のマラリア症例の約 **63%**を占める一方、緊急性の高い危機や長期化する危機に直面している国々は、世界の結核症例の約 4 分の 1 を抱えています。

グローバルファンドは、こうした国・地域に多くの資源を重点的に振り向けるとともに、紛争、強制移動、感染症のアウトブレイク、その他の緊急事態に直面する中でも、命を救うためのサービスを維持できるよう、支援の方法を工夫しています。2024 年から 2026 年にかけて、グローバルファンドは、**投資総額の 38%に当たる 53 億米ドル**を、困難な事業実施環境（Challenging Operating Environments: COE）に投資しています。エイズ、結核、マラリアに関する欠かすことのできない保健医療サービスが危機にさらされ、既存グラントの用途変更では対応が間に合わない場合には、緊急支援ファンドによる迅速かつ柔軟な資金供与が行われます。2014 年から 2025 年にかけて、グローバルファンドは 39 カ国に対し、緊急支援ファンドから **1 億 5690 万米ドル**を供与しました。

イノベーションによる進展の加速

各国が限られたリソースでより大きなインパクトを生み出すことを目指す中、進展を加速する手段として、イノベーションの重要性がますます高まっています。今回の成果報告書では、画期的な HIV 予防手段であるレナカパビルが、2025 年末にグローバルファンドの支援を受ける早期導入国に初めて供給され、その後 2026 年に導入が急速に拡大したこと、結核対策として AI を活用したデジタル X 線検査が 20 カ国以上で導入されたこと、さらにマラリア対策として、二重有効成分を用いた殺虫剤処理蚊帳の導入拡大が継続されたことを取り上げています。この蚊帳は、殺虫剤耐性がみられる地域において、標準的な蚊帳と比較してマラリア症例を最大 **45%**減少させる可能性があります。

政府、民間セクター、製造業者、専門機関とのパートナーシップを通じて、新たな保健技術を、それを必要とする国々へより迅速に届ける取り組みも進んでいます。市場形成、共同調達、新製品の導入・普及に向けた連携を通じて、グローバルファンドのパートナーシップは、革新的なツールが高所得国とほぼ同時に低・中所得国にも届くよう支援しており、これにより、これまで 5 年以上に及ぶこともあった導入までの時間差を大幅に短縮しています。

より強靱な保健システムと世界の健康安全保障への投資

パンデミックへの予防・備え・対応（PPPR）に関する国連総会ハイレベル会合が来週開催されるにあたり、今回示された成果は、グローバルファンドによる投資が保健システムと世界の健康安全保障をいかに強化しているかを改めて示しています。2024 年から 2026 年

にかけて、グローバルファンドは保健・コミュニティシステムに約 59 億米ドルを投資しています。これは前回の事業実施期間と比べて 43%増となり、保健システムへの投資額としてはグローバルファンド史上最大となります。検査施設、疾病サーベイランス、医療用酸素、サプライチェーン、コミュニティ・ヘルスワーカー、プライマリ・ヘルス・ケアへの投資は、各国による感染症拡大の早期発見、迅速な対応、より強靱な保健システムの構築に貢献しています。この投資は、新型コロナ対応メカニズムによってさらに強化されています。このメカニズムにより、50 億米ドルを超える資金を動員し、新型コロナウイルスへの緊急対応に加え、検査システム、疾病サーベイランス、保健医療従事者、医療用酸素のインフラなど、重要な保健システムのインフラと能力の長期的な強化を支援してきました。これにより、将来起こり得る公衆衛生への脅威に対する備えも強化されています。

2026 年にコンゴ民主共和国で発生し、現在も続いているエボラ出血熱流行への対応は、こうした投資が実際に生かされていることを示しています。これまでのグローバルファンドの投資によって強化されてきたシステムや能力を基盤として、パートナーシップは迅速にリソースを動員し、疫学的サーベイランス、検査診断、接触者追跡、症例管理、感染予防・管理を強化するとともに、エボラ出血熱の影響を受けた地域におけるマラリア予防も支援しています。グローバルファンドは、既存のグラントから 640 万米ドルを迅速に動員し、さらに緊急支援ファンドから 460 万米ドルの供与を承認しました。

各国のリーダーシップが次の時代を形作る

今年の成果報告書では、各国のリーダーシップ、イノベーション、パートナーシップが、エイズ、結核、マラリア対策における数十年にわたる進展を守るうえで、どのように貢献したかが示されています。同時に、各国がより持続可能で自立した対応を行えるよう支援するため、グローバルファンドのパートナーシップが今後も変革を続ける必要性についても改めて示されています。

将来を見据え、グローバルファンドはすでにこうした改革を実行に移しています。2025 年末に承認された戦略的転換により、資源配分の優先順位が一層明確になり、自立性を高めていく国々への支援が強化されるとともに、より明確で予測可能な移行への道筋が整えられます。こうした戦略的転換では、国内資金による共同負担と資金動員、三疾病対策と各国の保健システムとのさらなる統合、コミュニティシステムの長期的な持続可能性が、より一層重視されています。

2025 年に生じた混乱は、効率性と有効性の向上、各国の主体性の強化、限られた資金から最大限のインパクトを生み出すことに重点を置いた、より広範な変革を加速する機会にもなりました。各国が自らの投資を拡大し、自立性を高めていく中でも、国際社会による継続的な投資が、今後も極めて重要です。各国とコミュニティが先頭に立ち、ドナーとパートナーがその取り組みを支えることで、グローバルファンドのパートナーシップは、これまで積み重ねてきた成果を守り、公衆衛生上の脅威であるエイズ、結核、マラリアを終息させるという目標に向けて、さらなる前進を図ることができます。

--

マルチメディア資料は[こちら](#)からご覧いただけます。写真の使用にはクレジットの表記が必要です。また、グローバルファンドの成果報告書の発表、およびエイズ、結核、マラリアの流行の終息を目指し、すべての人にとって健康で安全、かつ公平な未来を築くというグローバルファンドの使命に関連する目的に限り使用できます。

— 終 —

世界エイズ・結核・マラリア対策基金について

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、エイズ、結核、マラリアの流行の終息を目指し、すべての人にとって健康で安全、かつ公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間 40 億米ドル以上の資金を調達・投資し、最も影響が深刻な 100 カ国以上における、三大感染症との闘い、感染症を助長する不公平の是正、保健システムの強化、パンデミックへの備えに投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、ヘルスワーカー、民間セクターと連携して最も効果的な解決策を見出しながら、世界規模で展開しています。2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により 7200 万の命が救われました。

詳細についてはウェブサイトをご覧ください：www.theglobalfund.org

X をフォロー <http://twitter.com/globalfund>

フェイスブックに参加 <http://www.facebook.com/theglobalfund>